



諏訪神社

天正10年(1582)、鳥居峠にて木曾義昌と武田勝頼が戦った際に、武田軍はこの諏訪神社に駐屯していた。しかしその後武田軍は敗北し、社殿に放火して退却。しばらくはそのままの状態が続いたが、50年近く後に再建されたという歴史を持つ。

芭蕉句碑
送られつをくりつ果ては
木曾の秋

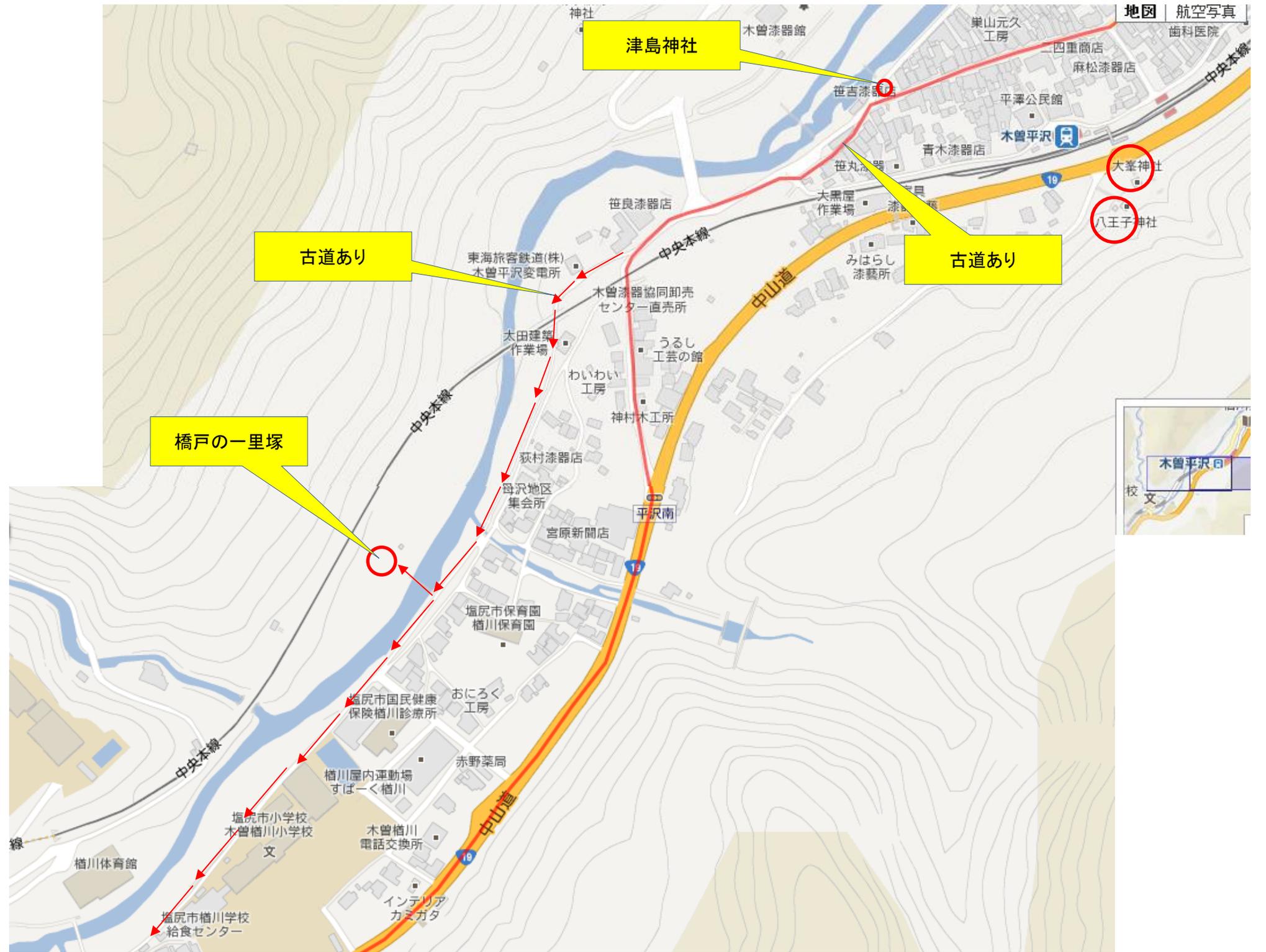


津島神社

古道あり

古道あり

橋戸の一里塚





奈良井宿標識

専念寺
入り口に、うなり石と呼ばれる大きな石がある。
これには、その昔、この石が夜になるとうなりだすので、釘を打ち付けたがうなりが止まらないので今度は酒をかけたらうならなくなったという伝説がある。今でも打ち付けた釘が残っている。



大宝寺

境内には、子育て地蔵の異名をとるマリア地蔵がある。
拝観料：大人100円

越後屋

創業は寛永年間の旅籠。現在も旅館として営業している。

伊勢屋

元脇本陣で、現在も宿泊することができる。母屋はおよそ200年の歴史を持つ。

いかりや町田民宿

浴衣、バスタオル、歯ブラシは各部屋に用意 0264-34-3202

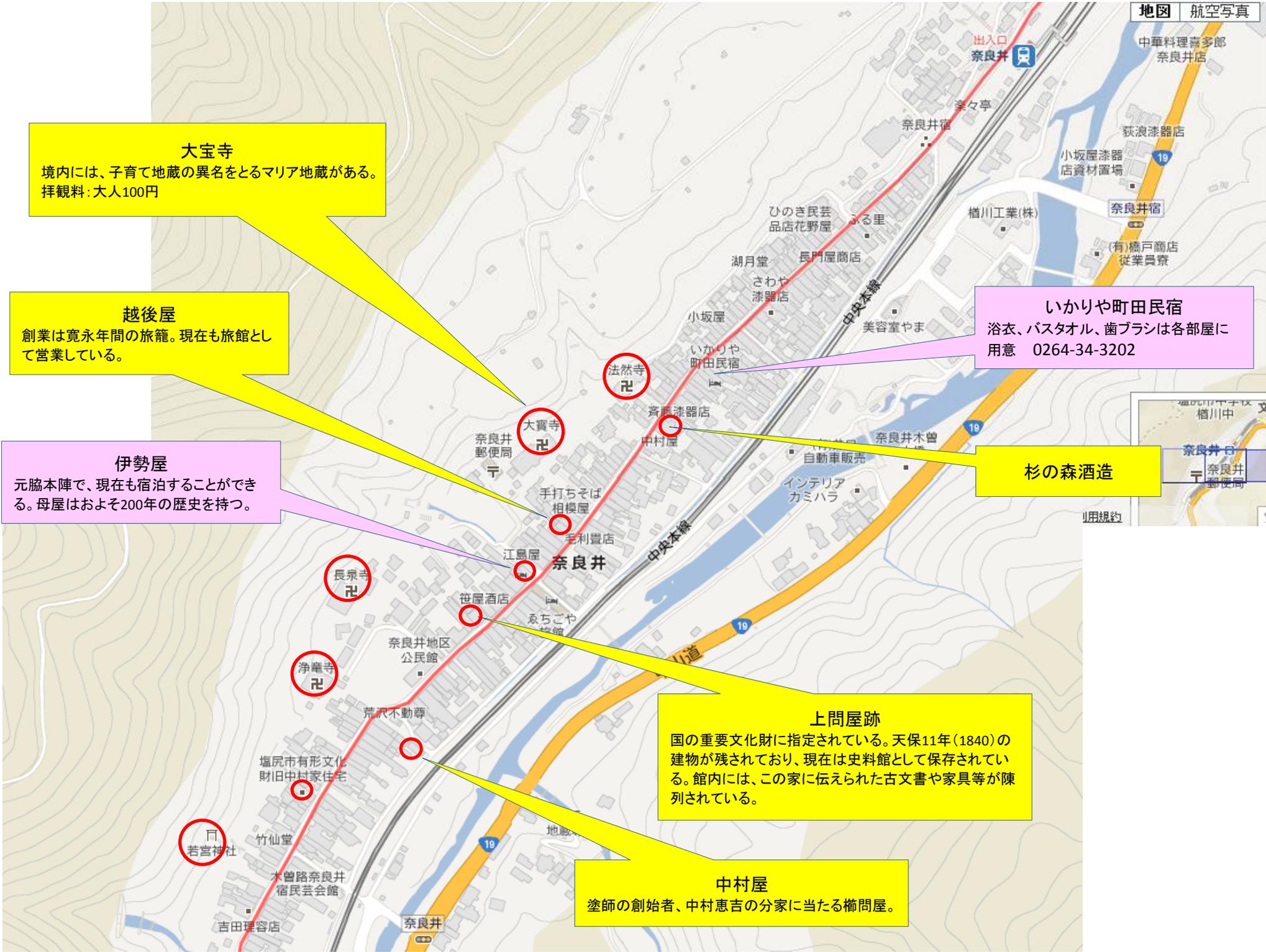
杉の森酒造

上問屋跡

国の重要文化財に指定されている。天保11年(1840)の建物が残されており、現在は史料館として保存されている。館内には、この家に伝えられた古文書や家具等が陳列されている。

中村屋

塗師の創始者、中村恵吉の分家に当たる櫛問屋。



高札場跡
奈良井宿の高札場は、京方の入口の場所に置かれた。現在は、当時の様子が復元されている。

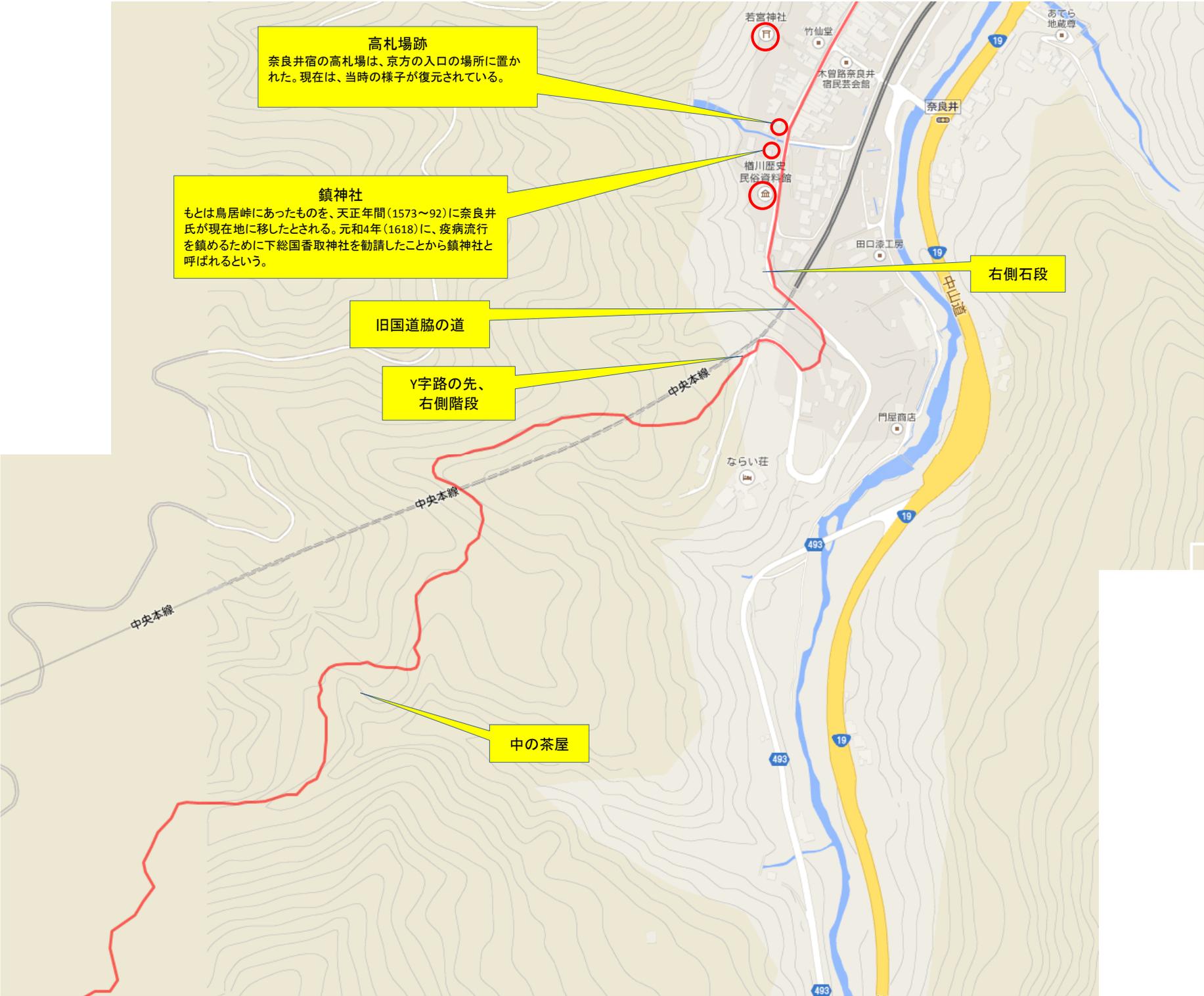
鎮神社
もとは鳥居峠にあったものを、天正年間(1573~92)に奈良井氏が現在地に移したとされる。元和4年(1618)に、疫病流行を鎮めるために下総国香取神社を勧請したことから鎮神社と呼ばれるという。

旧国道脇の道

**Y字路の先、
右側階段**

中の茶屋

右側石段





嶺の茶屋

御岳講明覚霊神碑

鳥居峠

峠は犀川・信濃川水系と木曾川水系の分水嶺で標高1197m、木曾路唯一の難所であったという。戦国時代、木曾氏は鳥居峠を木曾防衛の北方の第一線とし、敵の侵入の際には、木曾谷の深く引き入れ、峠上で食い止めて撃破する作戦を取り、しばしば合戦を行った。
鳥居峠の名は明和年間(1492～1501)、木曾を支配した木曾義元が松本の小笠原氏と戦った時、木曾義元が戦勝を祈願して御嶽山を遥拝し、そして戦勝したことにより鳥居を建立したことにより由来する。御嶽遥拝所は峠を藪原側に少し下ったところにある。

明治天皇駐蹕(ひつ)所碑

地図 航空写真

493

奈良井橋梁

第十六区
集会所

19

中山道 19

中央本線 なら

鳥居峠

明治天皇駐蹕(ひつ)所碑

子産の柵

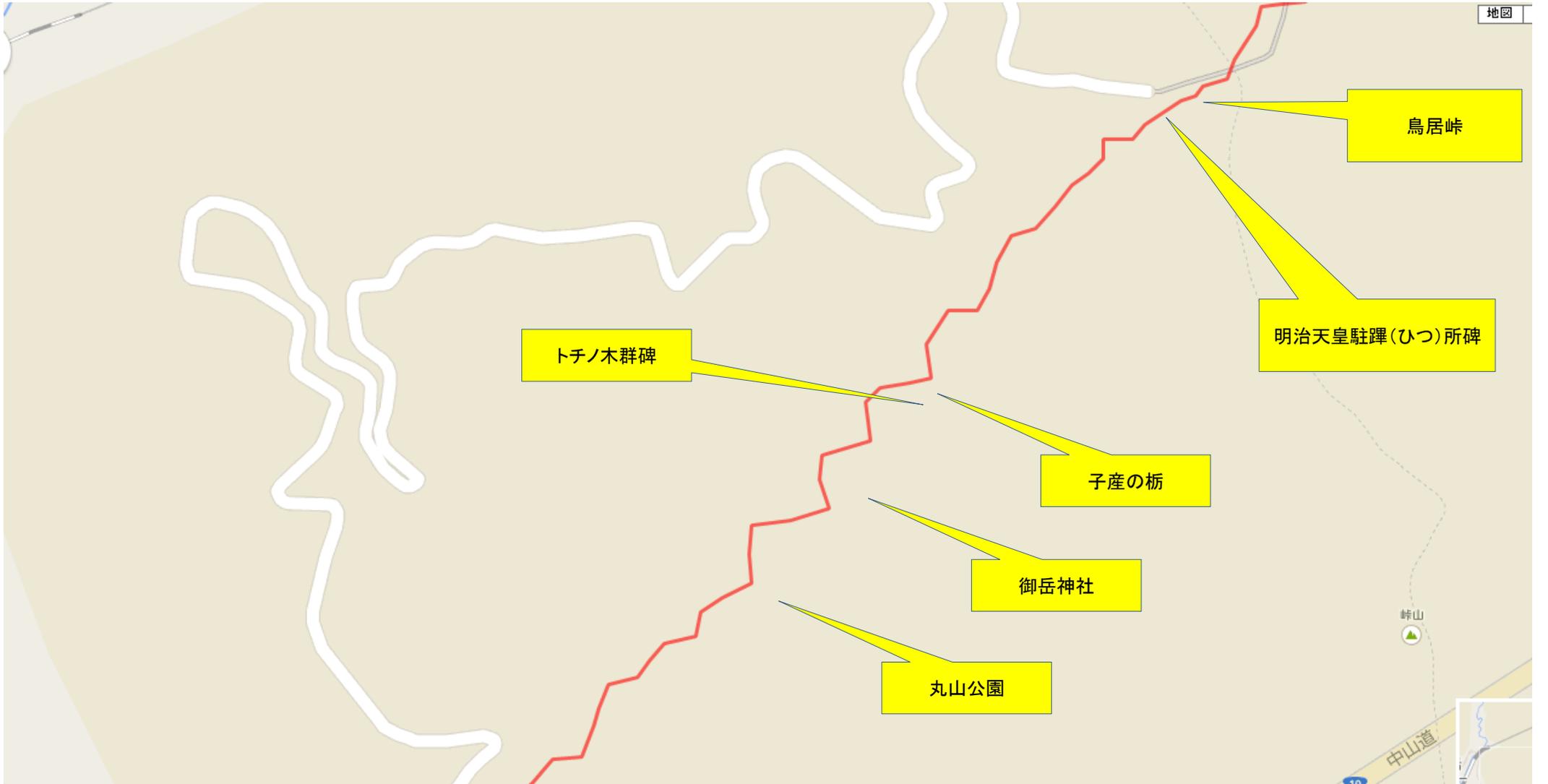
御岳神社

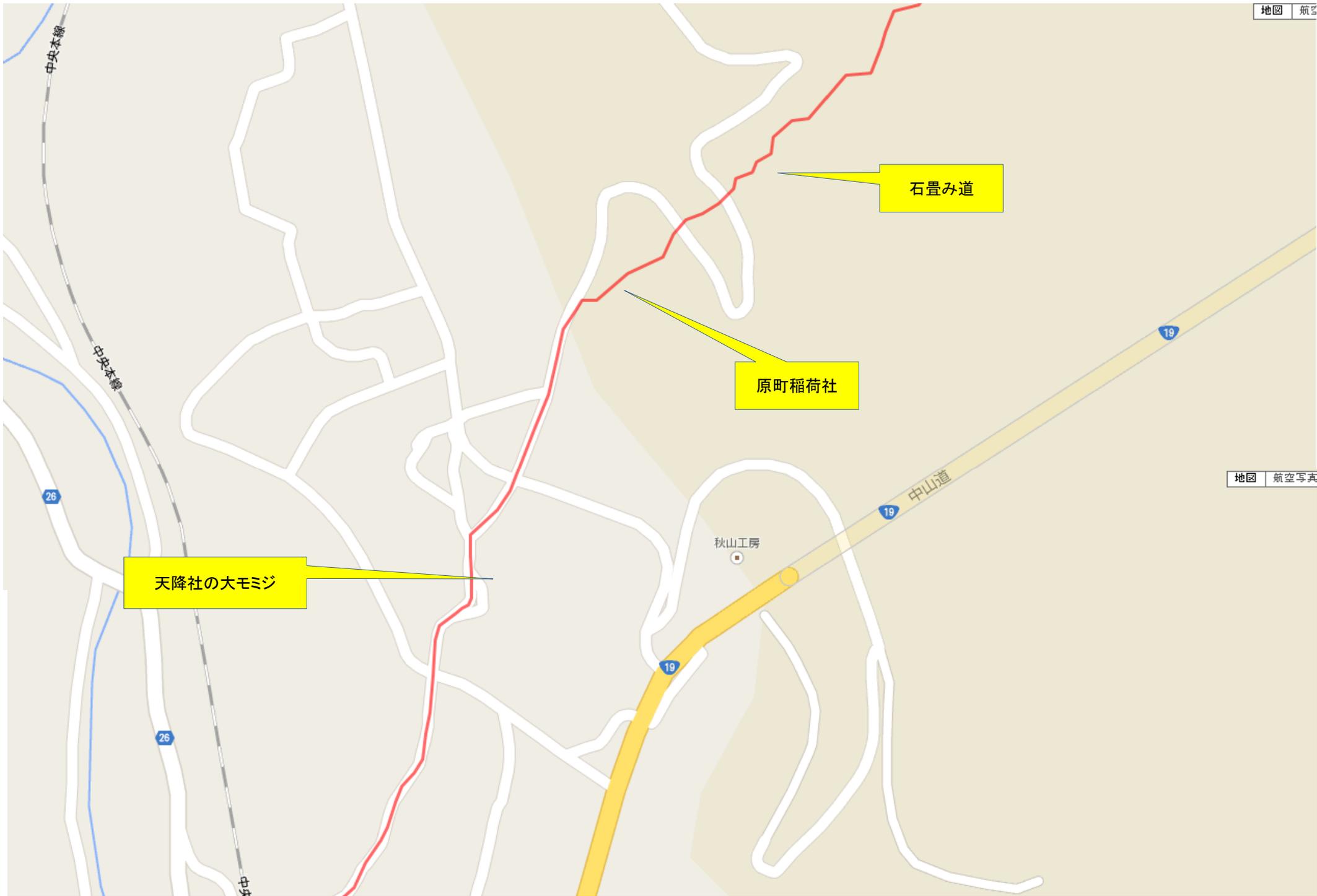
丸山公園

トチノ木群碑

峠山

中山道





石畳み道

原町稲荷社

天降社の大モミジ

尾張藩鷹匠役所跡
 鳥居峠の急坂を藪原宿に下った見晴らしの良い高台にある。眼下に藪原宿、木曾川源流、中央西線が一望できる。享保15年(1730)巢鷹官舎が設けられた。毎年5、6月に鷹匠方の役人が出かけてきて 付近で捕獲した鷹の雛を飼育した。尚、ここから、飛騨街道(奈川道とも称された)が分岐し野妻峠を経て、高山に向かった。

緑の跨線橋

葛沢橋

本陣跡
 藪原宿に1軒あった本陣で、文久元年(1861)には、皇女和宮も宿泊した。現在は標柱が立つのみである。

おぎのや

こめや

防火高塚跡

明治天皇駐輦碑

そばまんじゅう本舗

宮川家資料館

お六櫛問屋篠原商店

高札場跡

下り坂・枡形道路

石塔群

延命地藏尊



藪原

中央本線

中山道

石塔群

延命地藏尊

藪原一里塚跡

66里目の一里塚。石碑と説明板があり、その奥には、蒸気機関車が展示されている。

木祖村
郷土館

道の駅木曾川源流
の里きそむら

出入口

藪原

地図

木祖
藪



木曾川



木祖村役場
数原
川用規約



獅子岩橋

中央本線

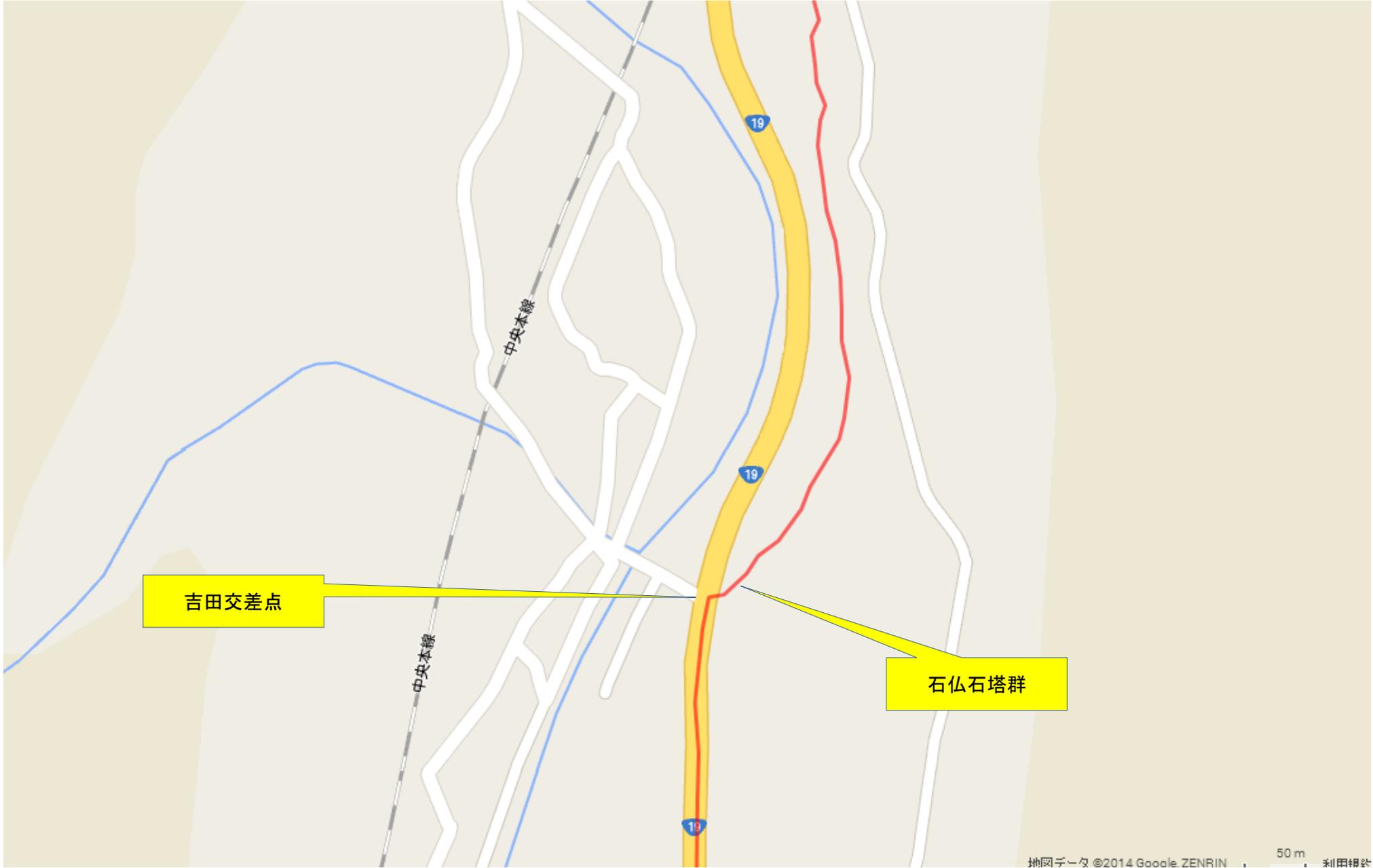
中山道

旧国道あり

菅交差点の手前、日野百草丸看板の所に林道松原線があり旧道あり

50 m

中央本線



吉田橋

旧道あり

山吹トンネル

旧道あり

セブンイレブン

(有)手塚
建築所

神谷入口

山吹山

中央本線

19

19

中出通

19

中出通

361

361

361



巴橋

巴淵

雨宮神社手洗水

山吹橋

山吹山

神谷入口

中央本線

(株)イケタニ

中山道

砂ヶ瀬



有栖川宮御休所跡碑

德音寺南バス停

葵橋

八幡工業(株)

向小路

百島

中央本線

中央本線

中山道

中山道



N - 利用規約

義仲館
 木曾義仲の生涯に関する歴史資料館。建物は全体が武士の館を模して造られている。(入場料: 大人300円)

德音寺
 山門にあたる鐘楼門は、享保8年(1723)の建立で、江戸中期の楼門建築を代表するものとして、よくその姿を留めていることから、文化財に指定されている。

本陣跡
 本陣の基本形を備えた規模の堂々たる屋敷を構えていた。建物は明治16年(1883)の大火で焼失したため、以後のものである。

明治天皇御膳水

石碑石仏群

**サークルK
 木曾日義店**





下島

上村

文
木曾町中学校
日義中学校

木曾町保育園
幼稚園日義保育園

木曾町支所
日義支所

一里塚跡木柱

セブンイレブン
木曾町日義店



役日
ター

不審川諸施設日
義浄化センター

地図 航空写真

木曾町保育園
幼稚園日義保育園

長渡

中山道第5踏切

三沢

松沢

中央本線

中央本線

中央本線

013 ZENRIN - 利用規約





石碑石仏群

石碑石仏群

無佐澤橋

中山道中間点
江戸、京都双方から、67里38町(約268km)に位置している場所。看板が立つのみだが、山々に囲まれ景色は良い。

手習天神
 古くは山下天神と呼ばれ、木曾義仲を養育した中原兼遠が義仲の学問の神として勧進したものと伝えられる。境内の一位(いちい)の古木は名木として知られ、中山道を往來する旅人は必ずここを参詣したといわれている。

変則Y字の中央入る

天神橋

ガード下をくぐり、階段を上がって19号線の右側歩道に渡る





案内板は迂回路を薦めている

古道は途中で消滅

おと坂

セデイリーヤマザキ
木曾福島新開店

矢崎沢

デイリーヤマザキを左折



木曾大橋の下を通る

福島関所
 創設年代は定かではないが、碓氷関所、箱根関所、新居関所と共に、天下の四大関所と称していた。他の関所同様、女改め、鉄砲改めに重点が置かれた。現在は史跡公園として整備され、関所古絵図を元に当時の御番所建物を再現している。

高瀬家
 木曾の地を治めた山村代官の家臣として仕えた家柄で、文豪島崎藤村の姉、園(その)の嫁ぎ先でもある。

興隆寺

木曾町資料館
 木曾福島郷土館

長野県立木曾
 青峰高校新開
 キャンパス

黒川渡

木曾町中学校
 福島中学校

木曾警察署

矢崎橋

中央本線

新町

新開福

中山道

木曾大橋

中央本線

旭町

青木町

新町

門前

福島関所
 資料館

関町

中央本線

19

361

361

19

19

山村代官屋敷
 木曾義元の食客となったことにはじまり、木曾氏の重臣として活躍した。後に、関ヶ原に向かう徳川秀忠の先陣として活躍し、勝利を得たことから、木曾谷の徳川直轄支配をまかされる木曾代官となり、明治に入るまでのやく270年間、関所を守った。

真岡薬局を左折

民宿むらちや
 0264-22-3186

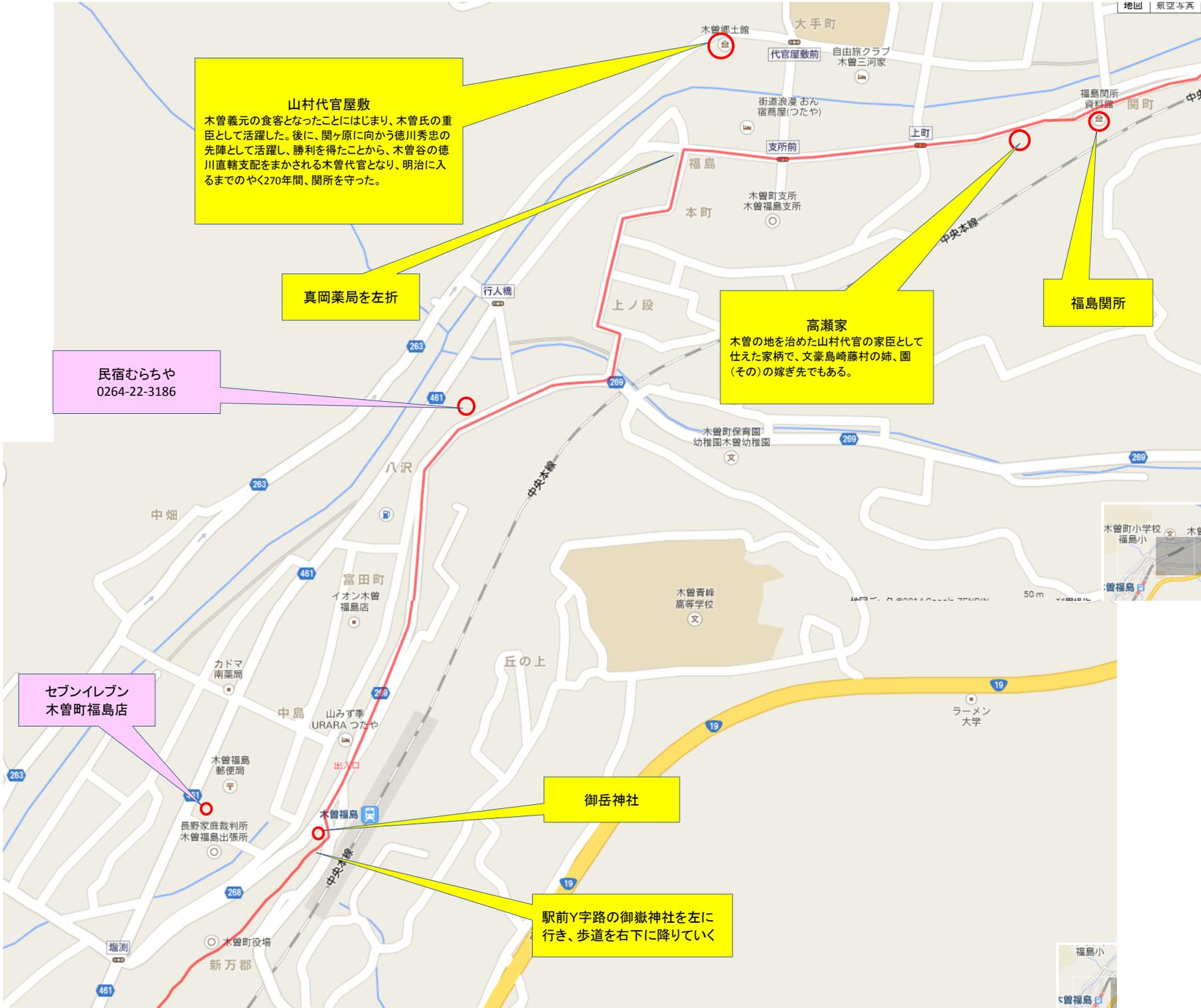
高瀬家
 木曾の地を治めた山村代官の家臣として仕えた家柄で、文豪島崎藤村の姉、園(その)の嫁ぎ先でもある。

福島関所

セブンイレブン 木曾町福島店

御岳神社

駅前Y字路の御嶽神社を左に行き、歩道を右下に降りていく





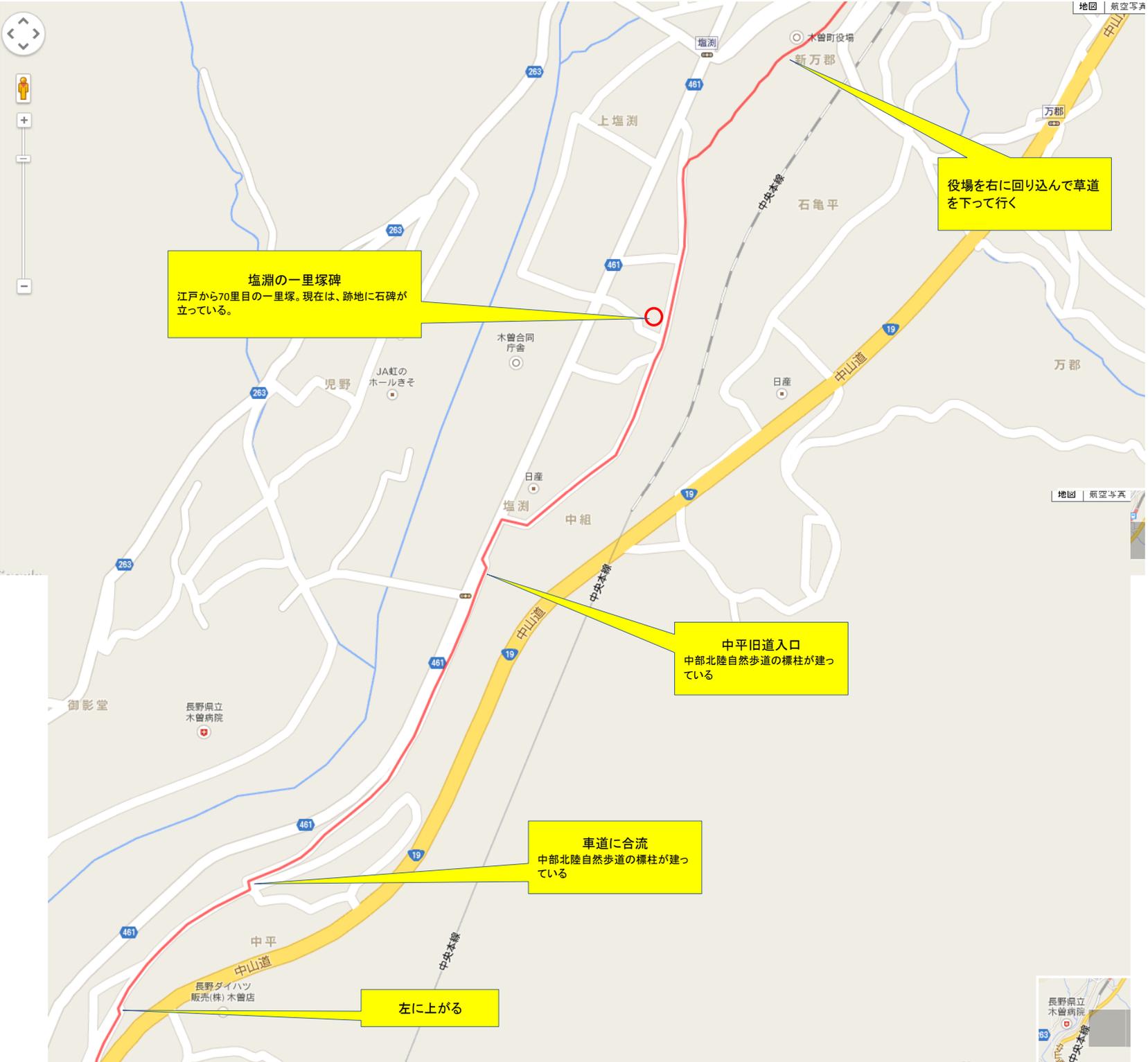
塩淵の一里塚碑
江戸から70里目の一里塚。現在は、跡地に石碑が立っている。

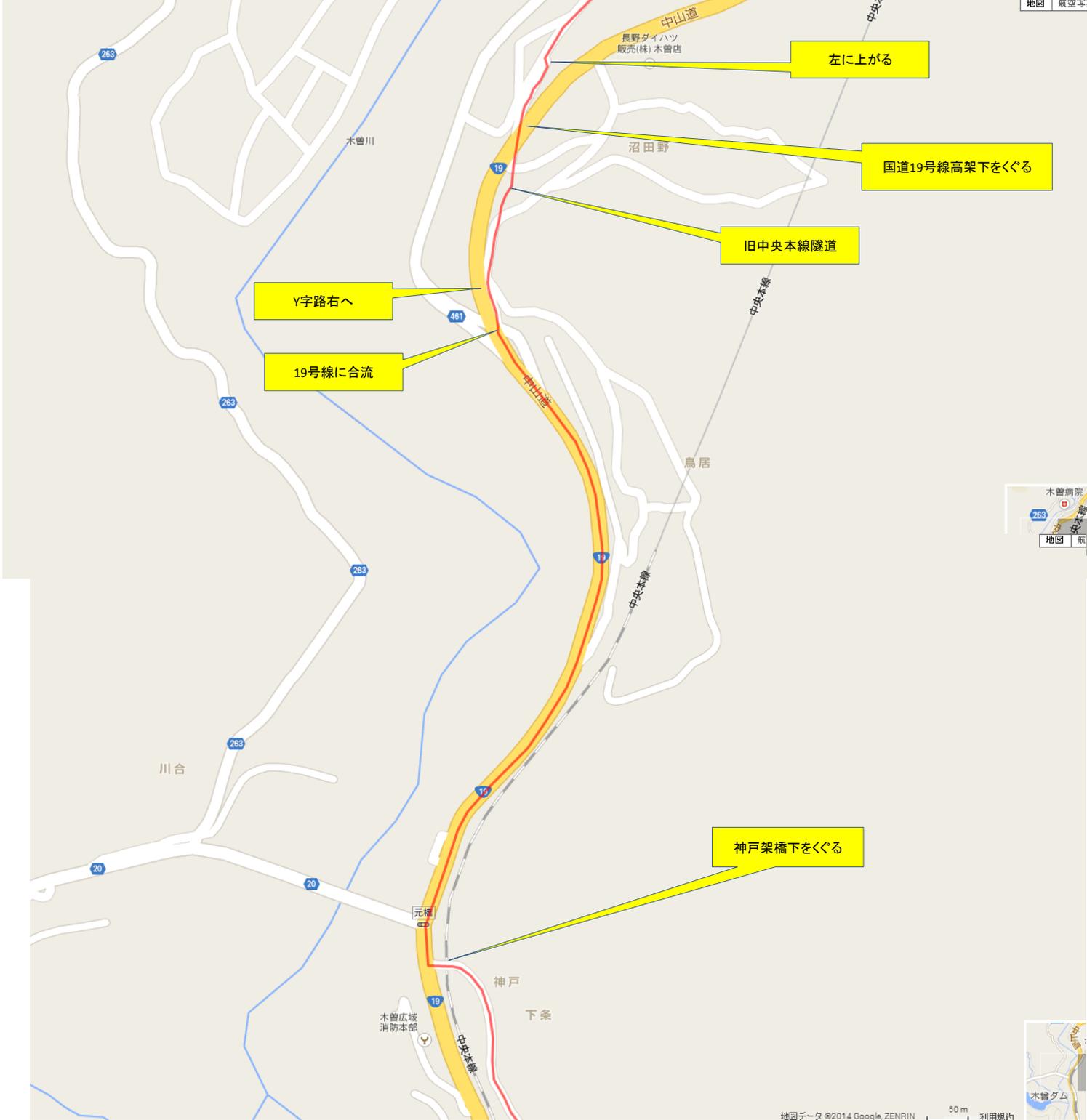
役場を右に回り込んで草道を下って行く

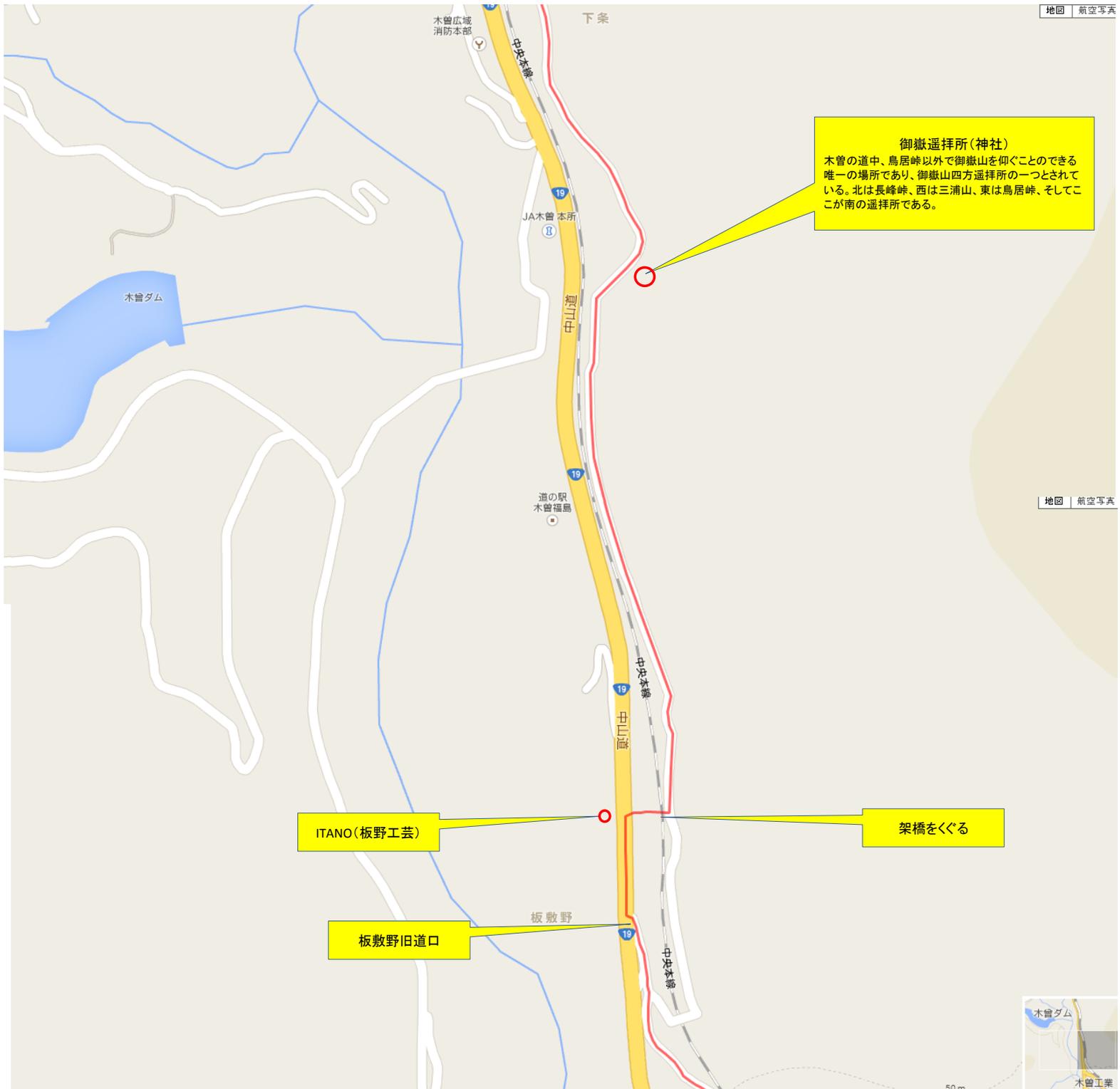
中平旧道入口
中部北陸自然歩道の標柱が建っている

車道に合流
中部北陸自然歩道の標柱が建っている

左に上がる







御嶽遥拝所(神社)
 木曾の道中、鳥居峠以外で御嶽山を仰ぐことのできる唯一の場所であり、御嶽山四方遥拝所の一つとされている。北は長峰峠、西は三浦山、東は鳥居峠、そしてここが南の遥拝所である。

ITANO(板野工芸)

架橋をくぐる

板敷野旧道口



中央本線に沿った草道

沓掛馬頭観音

伝説によれば、昔、木曾義仲の名馬は、人の言葉を理解していたという。
木曾の棧の絶壁に通りかかった際に目算で「七十三間とべ」と号令をかけた。馬は命ぜられるままに正確に七十三間とんだが、実際は七十四間であったため、人馬共に川の中へ転落してしまった。義仲は九死に一生を得て助かったが、馬は亡くなったという。その馬の菩提を弔うために建てられたのがこの観音堂といわれている。

沓掛の一里塚

71里目の一里塚。西側の塚は、鉄道敷設工事の折に取り壊されたが、東側の塚は原型をとどめている。

沓掛の一里塚碑
合流ポイントにある

木曾の棧

棧は木曾川に架けられたものでなく、山の岨道の途ざれた断崖絶壁に木曾川に沿って木の棧道が架けられたもの。正保4年(1644)には、その木棧が旅人の松明で焼失。翌慶安元年6月、尾張藩は街道確保のため、大金を投じて中央部を橋にする長さ56間(102m)に及ぶ石垣を築造した。この地は「棧橋の朝霧」として木曾八景の一つとなっており、**対岸には松尾芭蕉の句碑「棧や命をからむ駕かつら」がある。**

赤い「かけはし」から木曾の棧を見ることができる

賽の河原地蔵



北上条

池島

新茶屋

木曾川

南上条

歩道はこの辺りで消滅





上松宿入口標柱

十王沢川





八幡神社
玉林和尚が、甥の木曾義豊(上松藏人)のために、源氏の守護神である八幡社を館の近くに勧請したといわれている。上松町で最も古い神社である。

玉林寺
木曾義元の二子、玉林が天正10年(1582)に創建した寺。

本町一里塚跡
実際には、碑が立つ場所より先の中町に一里塚があった。現在は、現存していない。

小学校敷地に斎藤茂吉歌碑
と島崎藤村歌碑

材木役所跡
寛文3年(1663)から4年にかけて、尾張藩は木曾総山のチェックを実施し、その大半が伐採されていることに驚き、山村代官から山に関する一切の業務を取り上げ、この地に直轄の材木役所を作った。この役所は、3500坪という広大な敷地を有していた。

諏訪神社
上松の鎮守として古くからこの地にあった。





国道19号線跨橋

民宿たせや(茶本陣)

赤いポストを左折すると寢覚の床

越後谷(蕎麦切り老舗)

石碑石仏

桂の木(天然記念物)

セブンイレブン
木曽上松寢覚店

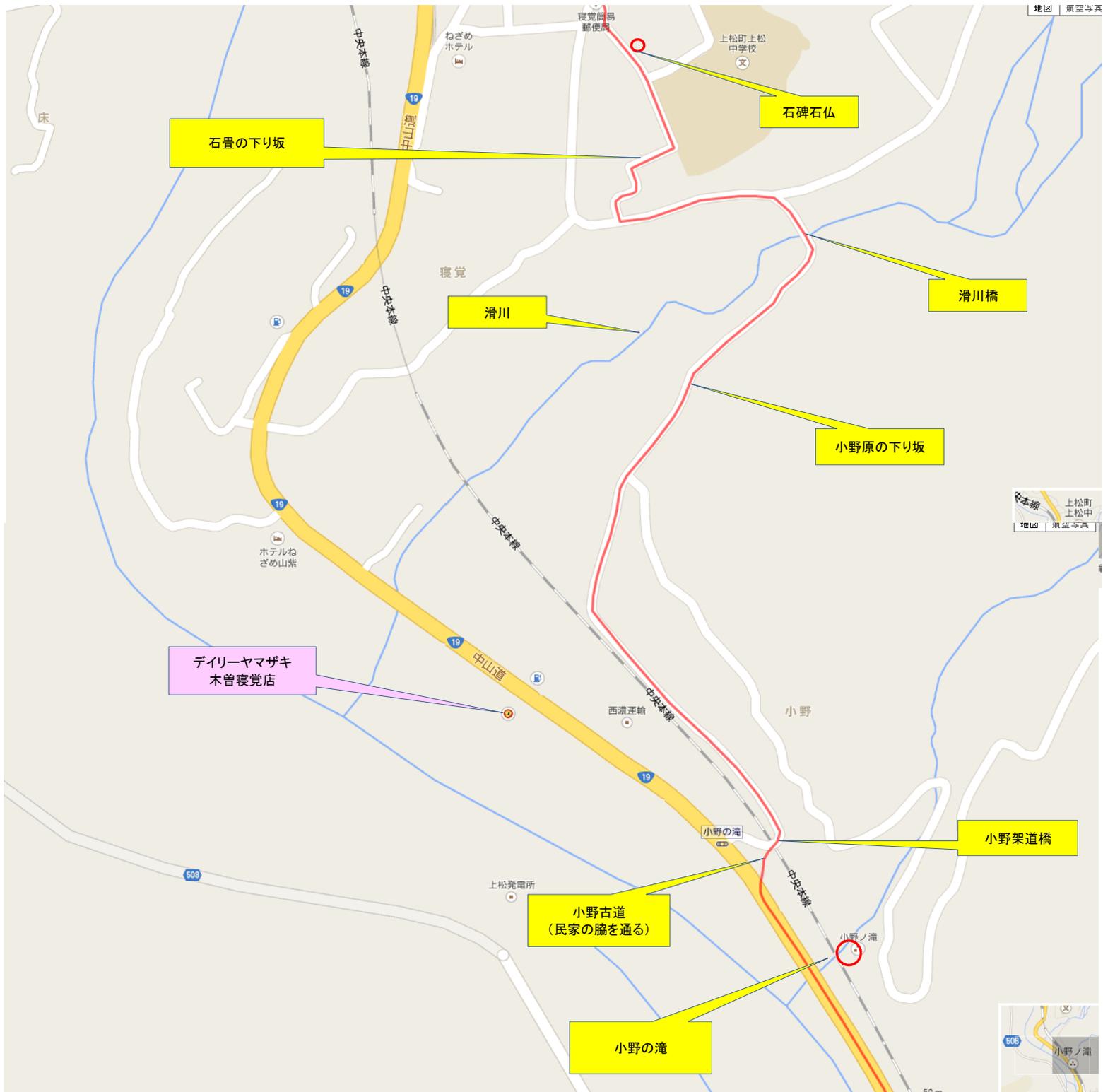
寢覚の床

寢覚の床

この地には、浦島太郎の伝説が残る。浦島太郎は竜宮城から地上へ帰るが、まわりの風景は変わっており、知人もおらず、旅に出ることになった。旅の途中、木曽川の風景の美しい里にたどり着き、竜宮の美しさを思い出し、乙姫にもらった玉手箱をあけた。玉手箱からは白煙が出て、白髪の翁になってしまう。浦島太郎には、今までの出来事がまるで「夢」であったかのように思われ、目が覚めたかのように思われた。このことから、この里を「寢覚め」、岩が床のようであったことから「床」、すなわち「寢覚の床」と呼ぶようになったという。

石畳の下り坂





石置の下り坂

石碑石仏

滑川

滑川橋

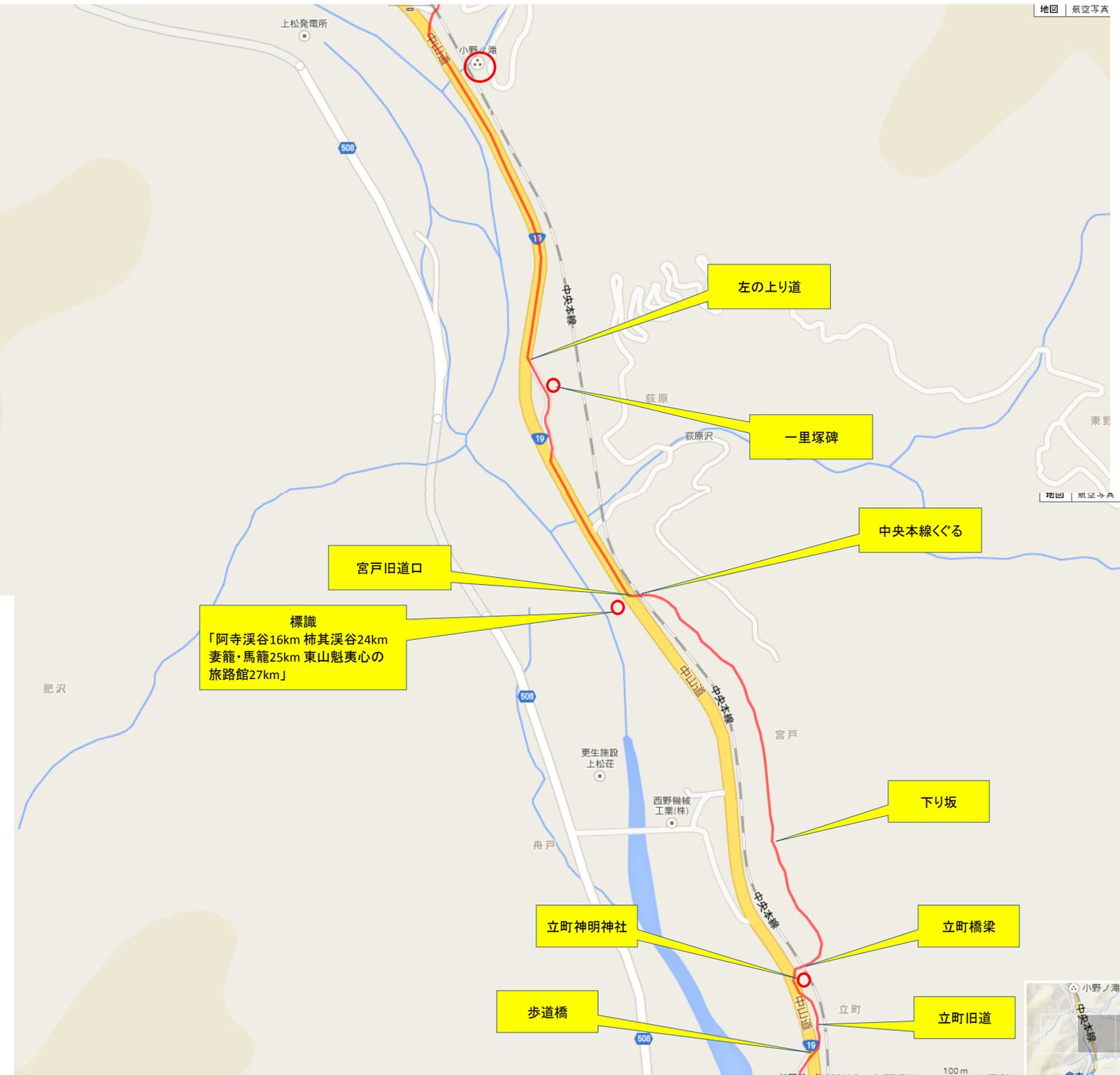
小野原の下り坂

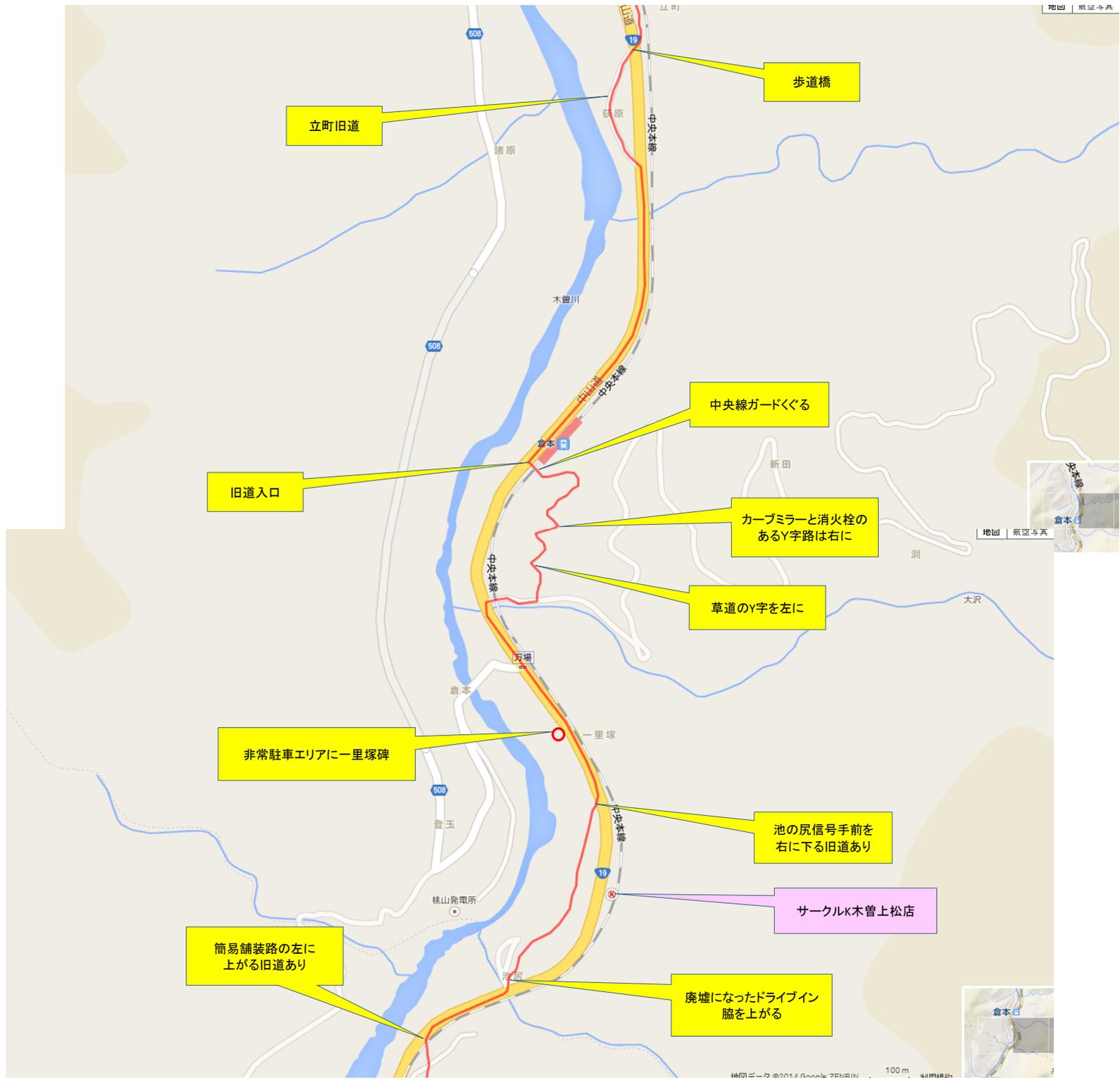
デイリーヤマザキ
木曾寝覚店

小野架道橋

小野古道
(民家の脇を通る)

小野の滝





立町旧道

歩道橋

中央線ガードくぐる

旧道入口

カーブミラーと消火栓のあるY字路は右に

草道のY字を左に

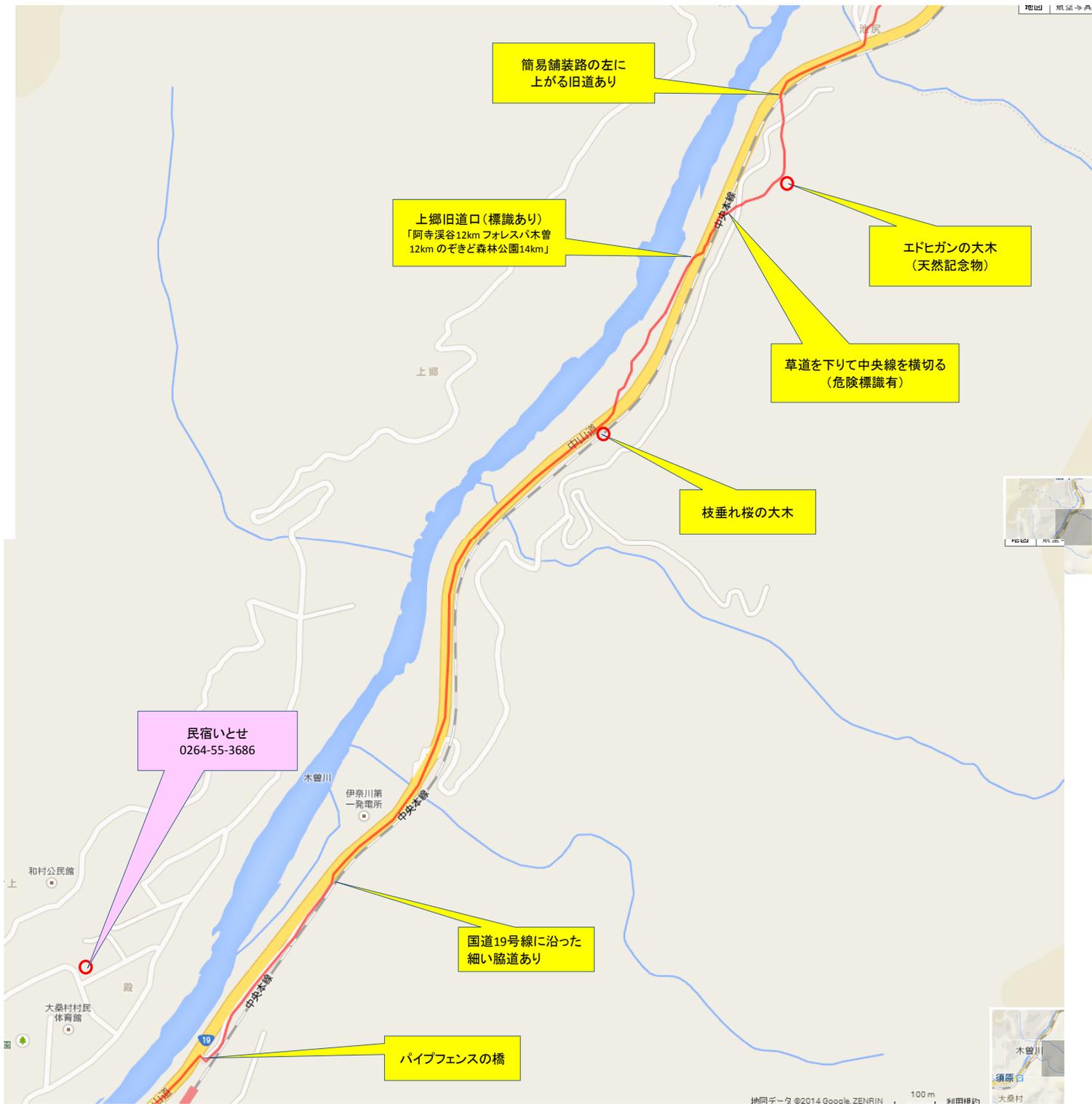
非常駐車エリアに一里塚碑

池の尻信号手前を右に下る旧道あり

サークルK木曾上松店

簡易舗装路の左に上がる旧道あり

廃墟になったドライブイン脇を上がる



簡易舗装路の左に
上がる旧道あり

上郷旧道口 (標識あり)
『阿寺溪谷12km フォレス/バ木曾
12kmのぞきど森林公園14km』

エドヒガンの大木
(天然記念物)

草道を下りて中央線を横切る
(危険標識有)

枝垂れ桜の大木

民宿いとせ
0264-55-3686

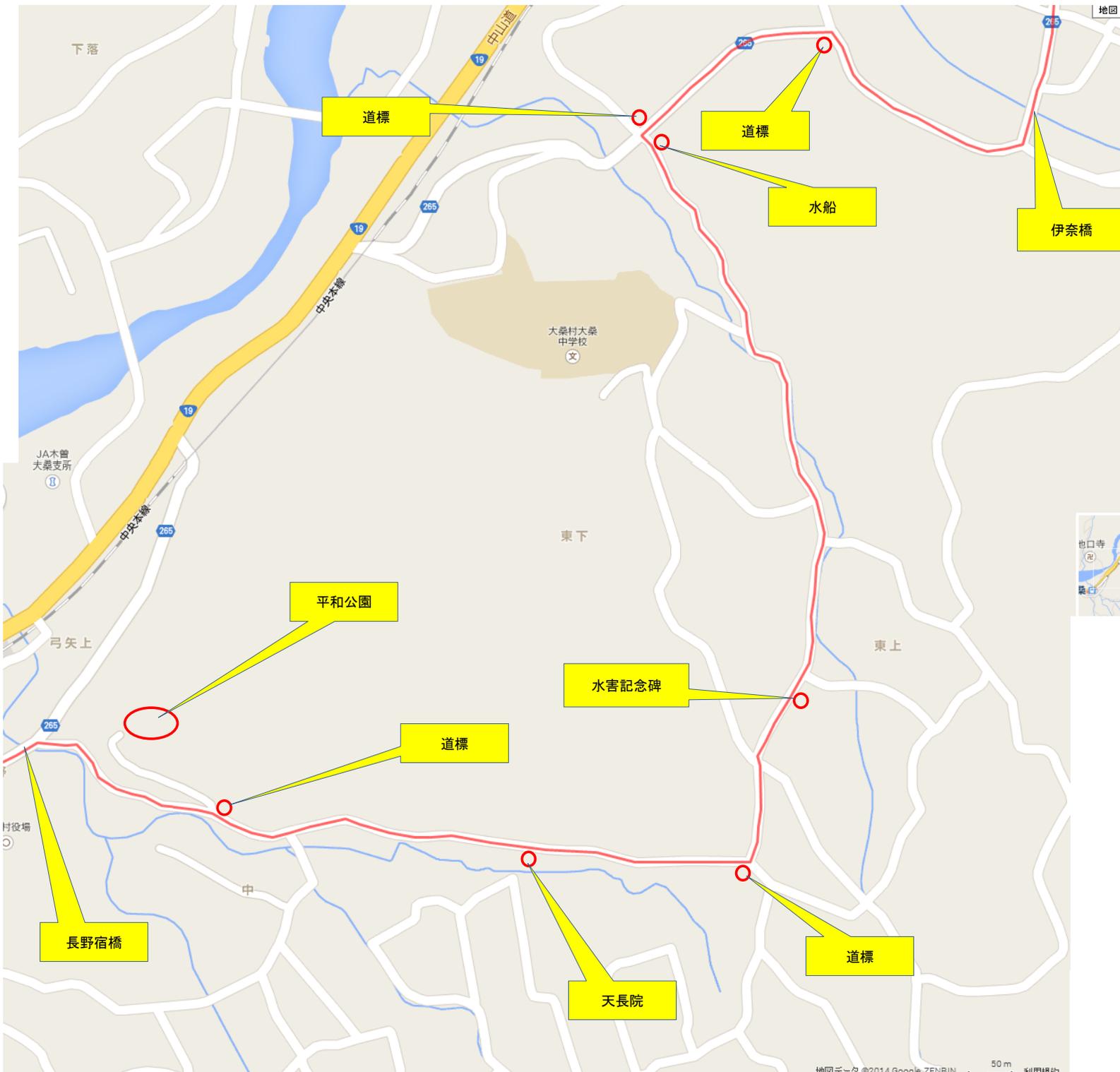
国道19号線に沿った
細い脇道あり

パイプフェンスの橋









下

道標

道標

水船

伊奈橋

大桑村大桑
中学校
文

JA木曾
夫桑支所

東下

平和公園

東上

水害記念碑

道標

長野宿橋

天長院

道標



関所跡碑
廃業したモーターの敷地内

第10中山道踏切

大桑一里塚

坂を下る

上田沢

長野橋

常夜燈2基

しご沢

長野宿橋

